

平成 29 年度 第 2 回 原子力土木委員会 議事録

1. 日時：2018 年 1 月 11 日（木）13:30-17:45

2. 場所：土木学会 講堂

3. 出席者（第 2 部出席者、敬称略、順不同）

○委員 丸山顧問（長岡技術科学大学）、小長井委員長（横浜国立大学）、蛭沢副委員長（電力中央研究所）、中村副委員長（日本大学）、高橋委員（関西大学）、仲村委員（中部電力）、黒岡代理（中国電力）、江尻委員（大林組）、秋山代理（日本原電）、大島委員（応用地質）、米山委員（京都大学）、高原委員（鹿島建設）、岡本代理（日本原燃）、小倉代理（関西電力）、伴委員（電源開発）、藤本委員（神奈川大学）、武村委員（名古屋大学）、関本委員（五洋建設）、佃委員（産総研）、奈良委員（放送大学）、吉村委員（ダイヤコンサル）、土委員（清水建設）、藤原委員（東北電力）、高田委員（東京大学）、藪委員（北海道電力）

○幹事 松村幹事長（電力中央研究所）、松本委員兼幹事（東京電力）、渡辺委員兼幹事（大成建設）、東川幹事（中部電力）、中島幹事（電力中央研究所）、両角幹事（関西電力）

○オブザーバー 吉田英一（名古屋大学）、上田小委幹事長、小早川小委幹事長、松尾小委副幹事長、松山小委幹事長（以上、電力中央研究所）

4. 議題：

第 1 部 公開講演会（13:30～15:00）

○講演 1 吉田英一教授（名古屋大学大学院）

「地層処分－技術的背景と日本の地質環境－」

○講演 2 岡本 洋平氏（経済産業省資源エネルギー庁）

「地層処分に関する科学的特性マップの提示について」

○参加者 約 80 名（委員を含む）

第 2 部 委員会（15:15～17:45）

- (1) 委員長挨拶
- (2) 前回議事録案・委員名簿の確認
- (3) 委員会活動状況（福島関連学協会連絡会含む）
- (4) 年間活動計画
- (5) 全国大会研究討論会報告
- (6) 分野横断新部門設立の動き
- (7) 会長との意見交換会報告
- (8) 小委員会報告

- ・国際規格研究小委員会
- ・断層活動性小委員会
- ・地盤安定解析高度化小委員会
- ・構造物耐震高度化小委員会
- ・津波評価小委員会

(9) その他(次期委員会予定など)

5. 配付資料(委員会)

資料1 前回議事録(案)

資料2 委員会名簿

資料3-1 原子力土木委員会2017年度活動状況

資料3-2 他学協会・学会内の連携状況

資料3-3 福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会全体会メモ

資料3-4 アンケートへの協力をお願い

資料4 原子力土木委員会平成29年度年間計画

資料5 2017年度土木学会年次講演会研究討論会の報告

資料6-1 分野横断型新部門準備検討会資料

資料6-2 共通セッションの提案

資料7-1 会長、委員会意見交換会 座席表

資料7-2 調査研究部門における土木学会長と委員会との意見交換会の議事メモ

資料8-1 国際規格研究小委員会報告

資料8-2 断層活動性評価の高度化小委員会報告

資料8-3 地盤安定解析高度化小委員会報告

資料8-4 地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会報告

資料8-5 津波評価小委員会報告

6. 議事

(1) 委員長挨拶

小長井委員長から、「原子力に対しては国民理解が厳しいが、我々に出来ること出来ないことを理解しておく必要がある。情報交換を行いながら、手伝いが出来れば」と挨拶があった。

(2) 前回議事録案・委員名簿の確認

松村幹事長から資料1、資料2に基づき「前回議事録」、「委員名簿」の確認を行い、了承された。

(3) 委員会活動状況（福島関連学協会連絡会含む）

(4) 年間活動計画

松村幹事長から、資料3-1、3-2、3-3、3-4に基づき「2017年度の活動状況」と「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」の説明、中島幹事から、資料4に基づき「年間活動計画」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

C 福島復興については、情報収集として今後も関わっていく。

Q 学会内の連携だが、原子力廃棄物について、原子力土木委員会とエネルギー委員会が何故連携しないのか

A エネルギー委員会の状況がわかっていないが、専務理事の意見も聞きながら、連携を考えていく。

C 高レベルと中レベル、低レベルで連携できると思う。

C 同じシナリオでやるべきだが、それぞれの専門があるので、前提条件を整理して行わないと不毛な議論になる。

(5) 全国大会研究討論会報告

渡辺幹事から、資料5に基づき「土木学会年次講演会研究討論会」の報告があった。主な質疑応答は以下のとおり。

C 来年度以降の研究討論会は、2018年度、2019年度いずれか一方のエントリーになる。研究討論会についてどういうテーマがいいか、幹事団まで連絡願いたい。

(6) 分野横断新部門設立の動き

松村幹事長から、資料6-1、6-2に基づき「分野横断新部門設立」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

Q 今の説明だけでは、問題の所在がよくわからない。何故こんな話が今でできたのか。具体的な例を示してほしい。

A 地震工学委員会が旗を振り出し、それぞれの委員会のスタイルは変えない。各委員会でも横断した組織体としては活動しているが、なかなか目に見えてこない。visibility化することが目的。

C これまでも、個人がいろいろな委員会で活動はしている。組織として参加するなら、目標が必要と考える。

C 既存を崩していかないと、負担が増えるだけでは。

C スクラップの一つとして、各委員会の特集号を一つにするという案もある。

C 横断することによって、横断しないと出来ないテーマがあるはずなので、そういったものを扱う方がよい。

C いろいろ考えながら進めていきたいので、今後も意見をいただければと思う。

(7) 会長との意見交換会報告

蛸沢副委員長から、資料7-1、7-2に基づき「会長との意見交換会」の報告があった。

(8) 小委員会報告

①国際規格研究小委員会

中村副委員長から、資料8-1に基づき「国際規格研究小委員会報告」の説明があった。

②断層活動性小委員会

上田小委幹事長から、資料8-2に基づき「断層活動性評価の高度化小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

Q 熊本地震の断層の見学会はマスコミに声をかけたのか。

A 直接は声をかけていないが、教育委員会や大学の方からマスコミに声がけしている。

Q 学会活動は公開が原則であるが、調査結果はオープンにすることでよいか。

A 調査については、取りまとめ次第、論文投稿等で発表予定。

③地盤安定解析高度化小委員会

小早川小委幹事長から、資料8-3に基づき「地盤安定解析高度化小委員会報告」の説明があった。

④構造物耐震高度化小委員会

松尾小委副幹事長から、資料8-4に基づき「地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

Q 研究成果は外部論文に投稿を行っているのか？

A 短期的には土木学会の年次講演会等に投稿している。将来的には土木学会のコンクリート部門やコンクリート工学会等の査読あり論文への投稿も考えている

Q 査読されたものを指針にすべきである。

A 地中構造物小委員会にて審議され、内容確認(査読)は行われる。原子力土木委員会関係者にもメール審議を依頼する予定である。

Q 指針はホームページ上に公開するのか。

A 将来的には公開を考えている。

⑤津波評価小委員会

松山小委幹事長から、資料8-5に基づき「津波評価小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

Q 実際に起こった事象のレビューに実験を加えるとシナリオ作りに役立つのでは。

A 事象の再現は、すべった原因は別として、すべり量でモデル化している。

Q 評価技術について、読む方が幅を持てる書き方になっているかが気になる。

A 海底地すべりのシミュレーションは無理である。シミュレーションの精度は上げているが、精度の悪い方でシミュレーションを行っている。

C メッセージとしてうまく伝わっていなかったなので、その反省として今回の改訂では、事例を明確にしている。

Q わからない部分というのは必ずあるので、前提となるものを明確にすべきでは。

A 精神としては、わからない部分も入れていきたい。評価の一手段として確率評価も考えられる。

C わからないことがいっぱいあるということが、最初に読んだ人にメッセージとして伝わっていればいい。

(9) その他

高田委員の方から、2020年の世界地震工学会が仙台で開催される。プログラム委員会の主査を務めるので、原子力に焦点が当たるようなセッションを設けたいと考えているので、協力依頼があった。

松山小委員会幹事長（オブザーバー）から、電力中央研究所原子力リスク研究センターシンポジウム2018（2月8日）の開催紹介があった。

以上